

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 #####

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号 (電話) 0996-22-6800
自己評価作成日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年7月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する同法人の介護老人保健施設で、主治医による往診や、機能訓練士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士の定期的な助言を受けながら、日々の健康管理に努め、入居者が安心して、心地良く生活して頂けるように、常に考えながら支援を行っています。隣接事業所と連携を取りながら、緊急時の対応や災害時の訓練を合同で行う協力体制が整っている。介護度や年齢により、精神面や身体面は様々ですが、コロナウイルスの影響により、これまでのように外出の機会が減った中でも、認知機能や身体機能の低下にならないようにリハビリも兼ねて、季節を味わえる食事の提供や、一緒に作る食レク、敷地内の散歩、施設内の飾りつけも季節がわかる物を一緒に作成するなど、皆様に楽しみを持って頂けるように、日々取り組んでいる。

職員が向上心を持って働ける職場を目指している。利用者の重度化と高齢化が伴う中で、法人内チーム介護で、入居者一人ひとりの個性や生活環境に配慮した介護に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的な雰囲気の中で明るく笑顔で暮らせる生活」「家族と地域の絆」「意思と自由の尊重」を理念に掲げ、理念が現状に則しているかを常に意識し、職員間で話し合いながら共有し合い実践につなげている。特に尊厳について大切に考えており、利用者には寄り添うことで気付けるアイコンタクトや仕草などを見逃さないよう日々努め支援に反映させている。

管理者が地域のグループホーム連絡協議会の理事を務めるとともに認知症施策のメンバーでもあることから、行政職員とは随時話し合う機会があり意見交換する関係が構築されている。また、県の実践者研修やリーダー研修の講師を務めているため、地域の認知症介護や福祉に関する助言を行う立場で活動されている。

広い部屋で距離を置き、換気やマスクの着用を徹底した上で運営推進会議を実施しており、利用者情報や活動内容、ヒヤリハットや相談苦情等の報告や話し合いを行っている。参加者からは住環境についてや災害時の対応についてなど積極的に意見を聞き、改善に向けて迅速に対応することでサービスの向上に反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念は平成24年に職員一同で話し合っって決めた理念を共有し実践に繋げている。毎朝理念を復唱を行い理解を深めている。	理念に家庭的な雰囲気や地域との絆という文言を盛り込むほか、意思や自由の尊重についてを大切に考え支援につなげていこうと毎日唱和して意識づけを図り実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会長と協議の上（当時の横馬場自治会）代表者名で自治会に加入している。認知症カフェや認知症サポーター養成講座、家族相談会を開催している。	コロナ禍における保育園や小学校との交流は控えているが、高等学校の部活動単位での認知症養成講座を開催したり認知症カフェによる地域交流を続けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人の一員として、運営推進会議や認知症カフェを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。地域、小学生を対象に認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や利用者のケアや取り組んでいること、報告、相談してサービスの向上、ケアに活かす取り組みをしている。	会議には家族や自治会長、行政職員のほか、消防署員にも参加して頂き事業所の活動内容やヒヤリハット等についてを報告し意見交換している。参加者からは活発に意見が出され、サービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族からの相談等や困難な事例は、市役所に相談を行い、的確に応えられるように連携を図っている。また、運営推進委員会議で市の担当者と意見交換をしている。	管理者がグループホーム連絡協議会の理事であることや県の実践者研修、リーダー研修の講師を務めていることもあり、日ごろから行政とは協力関係を密に築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、拘束について勉強会を実施、禁止対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組み、全職員の共通認識を図り、拘束ゼロに向け努めている。外へ出ようとする雰囲気を感じたら、外出に付き添う支援を行っている。	グループホーム職員と法人の看護師で構成する身体拘束適正化委員会を年4回実施するほか、スキルアップ研修会でも勉強の機会を設けるなど、職員全員が言葉による拘束を含めた身体拘束のない支援につなげている。また、日頃より見守りを徹底させることで施錠しない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については毎年、法人共同の勉強会の他、身体拘束委員会でも学習する機会を作り、理解を深めている。虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会へ職員が参加し、他の職員へ伝達講習会を行い、職員一人一人が理解するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や介護保険改正、加算算定時、事前に管理者、介護支援専門員より説明を行っている。ケアに関する取り組み、退去を含めた施設での対応可能な範囲についても説明を行っている。利用者、家族からも要望を聞き、施設での生活が良いものとなるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関の意見箱の設置や、運営推進委員会の家族の参加や、利用者・家族アンケートの実施を通して意見を把握し、サービス改善に活かしている。また、電話や面会時に話す機会を設けて要望を取り入れていけるようにしている。	毎年家族アンケートをとっているが、今年度は外部評価による家族アンケートに代え、家族の意見や要望を尋ねている。隔月発行する「そら便り」の送付や担当職員による家族との情報交換等により積極的に意見を求め運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・代表者が出席する運営会議、管理者・職員が出席する全体ミーティングを毎月実施し、職員提案や検討が行える体制を整え反映させている。職員間で意見を言い合える雰囲気作りをしている。	毎月法人全体の職員会議を実施し会議報告を兼ね「GHそら会議」を実施するほか、年1回理事長による個別面談も実施している。日頃から職員同士連携が図れており意見を出しやすい関係が築けている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務は原則担当制としているが、業務量が過多にならないよう業務分担の配慮をする他、研修や資格取得の支援、資格手当の支給を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所としてスキルアップ勉強会を毎月行い、法人としても勉強会を行っている。行政やグループホーム協議会、認知症関連の研修会への参加機会を設け職員のケアの質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、系列や近隣のグループホーム、在宅介護事業所との連携やグループホーム協議会加入等により、交流や勉強会の参加を通じて、質の向上に繋げる支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めてに環境における生活に対する不安は強いものであることを全職員が理解しており、利用される事前の情報をもとに、話題提供しながら積極的に関わりをもつように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用におけるご家族からの情報の重要性を全職員が理解しており、入居後もご本人とご家族との良好な関係が保てるように積極的に相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、初期相談は法人の支援相談員窓口に一本化されているが、相談等入居の可否に関わらず、その時必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決への支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者に応じて家事作業、調理レク（お菓子作り、漬物等）を「昔取った杵柄」を活かせるような支援を行っている。職員も一緒に参加し、笑ったり喜ぶなど楽しい時間を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとって家族は重要な存在として扱い、生活状況について面会時や電話連絡時、広報誌や介護計画説明時にお伝えしている。体調不良時には利用者の現状を報告し家族との交流が常に取れるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で減少しているが、近隣地域へのドライブ、散歩に出かけている。家族や友達と手紙の交換や電話で話して頂く機会を作っている。	コロナ禍のためこれまで出かけていた馴染みの場所に出かけることができなくなった代わりにドライブや人混みを避け、あじさい見物に出かけたり、ウッドデッキで食事をするなど工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、利用者同士が協力し合い、良好な関係が持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院等に移られた方には、これまでの生活状況や支援状況、注意点等情報提供を行い、生活する場所が変わっても生活の継続性が出るように努め、家族からの相談を受けるなど関係性を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中から、一人ひとりの思いや意向は個性としての言葉や表情、行動仕草から把握し、申し送りやカンファレンスで情報を共有、検討しケアの統一を実践している。	職員が気づき、感じたことを随時報告し、話し合い「なぜ？」「どうして？」を考えながら日々支援につなげる努力を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行い他、ご家族や知人、ケアマネジャー等プライバシーに配慮しつつ収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の変化に対応出来るよう、個人録や申し送りノート、業務日誌の文章、ケアカンファレンスや申し送りの場を活用し共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日々の関わりの中で想いを反映させることができるようにしている。介護計画は、本人、家族、担当職員・介護支援専門員等を含め必要に応じ医師や併施設設専門職（歯科衛生士、作業療法士、管理栄養士等）の意見を入れながら行い、承諾を得て決定している。	意向欄には本人や家族の思いがより直接的に伝わるよう方言を含め、ありのまま記入している。計画書は会議で話し合われたカンファレンス内容や担当職員の意見のほか、主治医や歯科衛生士等、関係者の意見も参考にしながら作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人録や所定の記録用紙を活用している。本人の言葉やエピソードを記入し、変更点・注意点等申し送りに記入して全職員が情報を共有し、介護計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の専門職等多様な事業所のマンパワーを生かし、専門職からのアドバイスや事業者間の交流などその時の利用者のケアの多様性に役立っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きたい場所や、したいものについて把握に努め、その行きたい先等への事前連絡は個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や専門医の選定にあたっては、家族と検討し、その時の状況に合わせて、協力医療機関と協力も頂きつつ行っている。	月2回、協力医療病院による訪問診療を受けられるため、利用者や家族、職員の安心につながっている。他科受診は家族にお願いしているが困難な場合は職員が受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在看護師は勤務していないが、主治医が2週間に1回定期往診もあり適切なアドバイスももらっている。常に利用者の状態変化を見逃すことのないように、夜間や緊急時は併設施設の看護師対応いただけるような体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は、努めて病院に出向いたり、電話等での情報収集等を行い、情報提供・共有が図られている。退院後の生活の不安が少なくなるよう、退院時の情報収集、法人としての専門職と連携した判断の体制作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族に対し、入居時より当事業所では対応可能な事、出来ない事を説明している他、早い段階から個別に話し合い、入居継続可否の判断は、主治医や協力医療機関の医師にお願いしている。</p>	<p>契約時に「重度化対応に関する指針」を説明し同意を得ている。指針では看取りには対応していないが、可能な限り利用者家族の望む暮らしが実現できるよう支援していくことを明確に記載している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時や体調の急変とその対処法について勉強会や法人共同の勉強会を開催している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の併設と共同で、避難誘導・火災訓練・災害訓練、夜間呼出し訓練を行っている。運営推進委員会で消防職員からアドバイスを頂く他、災害時に備え飲料水や食料を備蓄している。	年2回、隣接する事業所と合同で火災や風水害訓練を実施するほか、大掃除の際にプラグの掃除や点検を行うほか、避難経路や足元環境を確認する機会を設ける等、日ごろから安全確認を繰り返し行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として個人情報保護・尊厳保持に努めている。日常生活での関わり方については、ケア会議等で話し合い、誇りやプライバシーを損ねない対応について考える機会を設け、職員のケアを見直す機会としている。	毎月のスキルアップ研修会に権利擁護や個人情報の取り扱いについてを組み込み意見交換している。遠くから名前を呼んだり、大きな声でトイレに誘うことのないよう言葉使いの大切さを常に意識し接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中で、本人の意向を聞き出し、自己決定出来るように選択しを増やすようにし、自己決定困難な方については表情等から推測している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴や好み、体調等を把握し、居室でゆっくり過ごす、日課活動・趣味活動に参加するなど個々人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容（化粧）の時間を設けたり、服装希望（選択）などその人らしさを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付け、お茶入れ、片付け掃除等職員と入居者が一緒に行っている。ケーキ作りなど楽しんで頂く工夫をしている。	季節の食材を取り入れたり、ホットプレートでおやつを作るなど食べる楽しみを大切に考え支援している。コロナ収束後には、また楽しく外食に出かけたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の管理栄養士、歯科衛生士、言語療法士の助言で適切な形態を決めている。食事・水分摂取量は表に記載し、量の確保に向けし好品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生マニュアルに沿って、食前の口腔体操、歯科衛生士による口腔チェックを定期的に行っている。必要時は歯科治療に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	高齢により生理的に失敗される方が多いため、尿取りパットを活用しながら時間的声かけで、「お互いに安心」という関係性を大切にしながら支援している。	トイレの訴えが難しい利用者には排泄チェック表を参考にしてタイミングを見計らい誘導している。すべての利用者が満足できるよう職員全員が統一した方法で排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に確認して、便秘予防になるように、水分補給や毎日の運動の実施している。薬の副作用や習慣的な便秘の方には、苦痛や不安を引き起こさないために医療と連携して緩下剤を服用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者の体調や希望に合わせた援助が出来ている。時に拒否される方については、安心して気持ちがいいと思って頂くよう声をかけている。時間に追われずコミュニケーションが図れるようにしている。	週3回午前中に入浴している。入浴を楽しんでもらうため入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わえる工夫をしており、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠確保のため、夜間の排泄支援の方法（時間・回数等）は入居者毎に変更したり、必要に応じて昼寝を取っていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用等について処方時には必ず確認している。変化が見られる際には速やかに主治医に報告して対応できるようにしている。誤薬のないように、ダブルチェック、声出し確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが喜び生きがいを持つて生活が送れるように、入居者それぞれが、得意な事を把握して、日々取り組む機会が持てるよう努めている。散歩や壁画、生け花季節感を感じて頂けるよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望に合わせて、戸外へ出て敷地内の散歩を行っている。コロナ禍が終息すれば、必要に応じご家族の協力を得ながら外出の機会を増やし、外出着を一緒に選ぶ等支援をしていく。	コロナ禍のため外出が難しいがそれでも気分転換にとドライブや、あじさい見物に個別に出かけるなど工夫している。コロナ収束後は、また以前のように地域交流や出かける機会を多く設け利用者に喜んでもらいたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理方法は事前に本人、家族と話し合っており個別に支援している。購入する時は家族に連絡をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話等の希望がある際は自由に話してもらっている。また、年賀状や暑中見舞い、手紙など家族に出している。家族からも手紙がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花を飾り、ご利用者の制作した季節の作品を飾るなど生活館を演出している。温度・湿度の確認、空調や換気の調整をして入居者へ確認しながら快適に過ごせるよう心掛けている。	玄関ドアは3枚引き戸のため開口部が広く、スロープも設置してあることからアプローチしやすい造りになっている。リビングは明るく開放的で季節の作品が掲示され温かみが感じられる。車いす対応のトイレは広く、手すりも動線に沿って途切れなく取り付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではテレビを見る方、外の景色を眺めている方、読書や新聞を読まれている方、箱折や裁縫する方入居者同士おしゃべりする方等一人ひとりが思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者前に馴染みの家具、生活用品等の持込みをお願いしている。居室には家族写真、趣味やプレゼント用品が飾られている。	これまで自宅で使っていた馴染みの家具や品物を自由に持ち込んでもらうなど落ち着ける環境に配慮している。換気や掃除は午前午後の2回職員が丁寧にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入り口、非常口にスロープがあり、館内は手すりやウッドデッキを設置し、身体機能が低下された方も快適に過ごせる工夫がある。認識しやすい表札の工夫もしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない